

**第 45 回：理研シンポジウム マイクロファブリケーション研究の最新動向
～マイクロ切削、高機能化レンズ、3D プリンティングの最前線～**

第 16 回オンデマンドーマイクロ合同シンポジウム

同時開催：第 6 回板橋オプトフォーラム

日時：令和元年 10 月 23 日(水)

場所：板橋区立グリーンホール

主催：理化学研究所 大森素形材工学研究室

共催：板橋区、一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会光部品生産技術部会、国立大学法人宇都宮大学オプティクス教育研究センター

協賛：板橋区産業振興公社、公益社団法人精密工学会、公益社団法人砥粒加工学会、一般社団法人電気加工学会、一般社団法人日本塑性加工学会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人日本機械学会

後援：一般財団法人品川ビジネスクラブ

開催内容の概要と主旨

先端的マイクロデバイスである「機能性構造体」の製造には、一層の超精密化・超平滑化・超微細化を極めた極限加工法の確立が不可欠である。

オプトエレクトロニクス、メカトロニクス分野のニーズからは、回折構造や立体構造を持つ次世代光電子デバイス、全体スケールが小さく複雑な形状を持つマイクロオプティクス、ファイバオプティクスや様々なマイクロパーツやモジュールなどがある。特にマイクロ光学素子の極限加工技術は、赤外から X 線領域に至る広範なマイクロ光学部品や、中性子フレネルレンズなどの研究開発分野において、広範に物理・工学の研究分野との接点を有し、表面計測や微細加工用ツール、マイクロメカトロニクス用コンポーネントの製作について、広く先端研究ツール開発として強いニーズがある。また、生物・化学・医学系の研究分野との接点においては、細胞マイクロマニピュレータや生体組織操作構築用ツール、マイクロサージェリーツール、生体置換コンポーネント、物理・化学的改質コンポーネント、バイオミメティックコンポーネントなどの開発へとつながり、バイオメディカル研究の推進につながっている。

このように、マイクロファブリケーションは多くの先端科学研究・技術開発から産業分野における次世代の新加工技術として多くの注目を集め、さらには進歩の著しい最先端の融合研究領域の創出にもつながりつつある。

本シンポジウムでは、当室および関連機関が行っているマイクロ・メカニカルファブリケーション関連研究に関する最新の研究開発／実用事例の紹介を中心とし、さらには各分野でご活躍の講師をお招きして、当該分野における最先端の研究・開発事例紹介を含め、議論する機会を供するものである。

プログラム

13:00-13:10	開会の挨拶
13:10-14:00	基調講演 Cruising inside cells 理化学研究所 脳神経科学研究センター 宮脇 敦史 氏
14:10-14:25	微細加工関連の最新研究動向 理化学研究所 大森素形材工学研究室 大森 整 氏
14:25-15:30	セッション I : オンデマンドセッション
14:25-15:05	レンズ上への反射防止構造の形成方法 東京理科大学 基礎工学部 谷口 淳 氏
15:05-15:30	多軸 3D プリンターによる試作品の作製とその評価 早稲田大学大学院創造理工学研究科 李 暁彤 氏
15:30-16:00	休憩, パネル展示 (601 会議室)
16:00-17:10	セッション II : マイクロセッション
16:00-16:40	ミーリング系加工機による超精密切削技術の汎用化展開 東芝機械株式会社 天野 啓 氏
16:40-17:10	宇宙線観測用フレネルレンズの製作について 理化学研究所 大森素形材工学研究室 春日 博 氏
17:10-17:20	今後の活動、閉会の挨拶

本シンポジウムは、理研シンポジウムの一環として行われています。